

退職記念講演（第 123 回汽水域懇談会）

水草の生態研究を振り返って ～基礎生態から保全生態へ～

講演者：國井秀伸 博士（島根大学 汽水域研究センター）

日時：2017年3月10日（金）17:00－18:30

場所：島根大学法文棟 2階 多目的室1



昭和 58(1983)年に島根大学理学部に赴任し、今年が 35 年目となる。汽水域研究センターには、学内共同利用施設として発足した平成 4（1992）年に籍を移し、現在に至っている。これまでの研究生活を振り返ると、千葉大学での卒業研究以来、水界生態学、特に水生大型植物（水草）の生活史関連の調査・研究が中心で、修士・博士課程では、帰化水生植物コカナダモの日本における急激な分布拡大のメカニズムを野外調査と実験により解明した。この研究スタイルは現在も続いており、90 年代以降は保全生態学的な視点から、宍道湖・中海周辺に生育するイトクズモやオオクグをはじめとして、オニバス、ヒメバイカモなどの RDB 記載種を中心に、各種水草の生活史関連の調査・研究を開始した。これとは別に、島根大学に赴任した翌年には、宍道湖・中海周辺に散在するため池の水草相と水質との関連についても調査に着手し、この調査は 10 年おきに現在も継続している。当日は、これら調査・研究のいくつかの成果のほか、中海の自然再生などの社会活動についても紹介したい。

